

母校名ベトナムで永遠

来年度閉校大阪・柏原東高

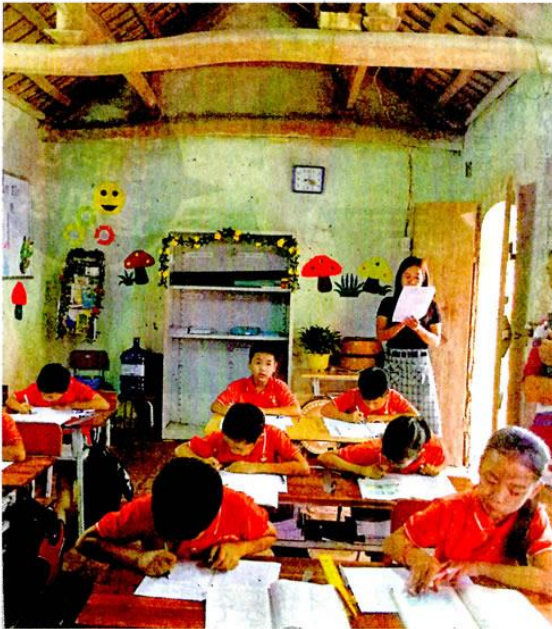
大阪府立高校再編の一環で2020年度末に閉校する柏原東高(大阪府柏原市)の同窓会が、ベトナムの公立小学校の新校舎建設を支援するため、同窓会費800万円を寄付した。今秋の完成を目指す校舎は、柏原東高の愛称「カントン(柏東)」を冠した名前が付けられる予定。「校名はもうすぐ消えてしまおうが、遠く離れた地に後輩がでるよううれしうれしい。支援に関わる卒業生は現地で交流を待ち望んでいる。」(石川将来)

1977年創立の同校は、17年度まで3年連続で入学者の定員割れが続いたことから、再編方針を定める府立学校条例の規定により閉校が決まった。

13年3月まで6年間勤務した元教諭の近田直人さん(56)は昨秋、発展途上国の教育支援に取り組む東京都のNPO法人「アジア教育友好協会」の活動を知った。約1万1000人の卒業生や勤務経験のある教職員でつくる同窓会として、

「母校を愛する卒業生の思いを形に残せないか」と模索していた近田さんは協会を通じて支援を発案。今年1月の総会で同窓会費の寄付が承認された。

支援するのは、貧困家庭の子ども約90人が通うティエンソン小学校のキムソン分校。ベトナム北部のバクザン省の農村にあり、NPOが選んだ。築30年以上の校舎は傷みが激しく、教室は狭くて暗い。天井がないため雨漏りし、夏は暑



天井がない狭い教室で勉強するティエンソン小学校キムソン分校の子どもたち
 Ⅱアジア教育友好協会提供

同窓会費で小学校校舎支援



ベトナムの小学校校舎建設への思いを語る近田直人さん(左)と山中篤会長
 Ⅱ大阪府八尾市で15日、石川将来撮影

く冬は厳しい寒さが襲うという。今年4月にベトナムを視察した近田さんは、子どもたちが恵まれない環境で熱心に学ぶ姿に心を打たれた。

新校舎は数倍以上の敷地に広い校庭を備え、現校舎にはないトイレや浄化設備付きの井戸も整備される。来年3月の開校式で柏原東高の校名にちなんだ通称を記したプレートが掲げられる計画で、「カントン・スクール」などが候補に挙がっている。

完成後もキムソン分校の子どもたちと文通したり、新校舎設立の経緯を学んでもらう授業を設けたり、さまざまな交流案が出ている。同窓会長の山中篤さん(56)は「母校が無くなること知りさみしい思いもあったけど、ベトナムに後輩がでるなんてロマンを感じます」と訪問を心待ちにする。近田さんは「閉校してもカントンの卒業生が胸を張れるような活動にしたい」と語った。